



令和7年9月 30日
10月号 No.480
発行責任者
校長 西村 学徳
所在地 福生市熊川 623

豊かな学びにつながる「本物体験」

校長 西村 学徳

9月下旬から、やっと秋らしい風が感じられ、過ごしやすい季節となりました。2学期に入ってから、熱中症指数が高く、なかなか校庭で遊ぶことができない時期もありましたが、今は、休み時間に校庭で子供たちが元気に遊ぶ姿が見られ、子供たちも休み時間を思いっきり楽しむことができています。



さて、先日の9月19・20日に、5年生は一泊二日で名栗自然教室に出かけてきました。福生を離れ、大自然に囲まれた名栗の森の中で、ピザやカレー作り、キャンプファイヤーやナイトハイク、バードコールの制作など様々な体験活動を行うことができ、まさに自然教室ならではの本物体験・感動体験がたくさん詰まった2日間となりました。

ドラム缶ピザでは、生地作りから始め一生懸命に小麦粉をこねたり、カレー作りでは、かまどの煙に多少目がしみる中、火加減を考えながら薪をくべたりしていました。また、キャンプファイヤーでは、燃え盛る炎を囲み、皆が自然に手をつなぎ合って「小さな恋のうた」を歌い、友情を深めていました。バードコールの制作では、ヒノキの爽やかな香りを楽しみながら、各自がオリジナルの作品を創りました。二日目の朝に、霧で満たされた森林の幻想的な景色を見て「わあ、きれい。」と驚きの声を上げていた子供たちの姿も印象的でした。

このような様々な体験は、5年生の子供たちの心に深く刻まれたことでしょう。五感をフルに使って行った今回の体験は、単なる思い出作りということではなく、子供たちの好奇心を刺激するとともに学びをより豊かなものにし、さらには心身の成長につながったことと思います。



9月の本物体験は、他の学年でも行われました。1・2年生では、自然環境アカデミーの野村先生からご指導をいただきながら、多摩川沿いの公園で虫探しを行いました。虫捕り網と虫かごを手し、生き生きと活動する子供たちの姿や、捕まえた虫を皆で囲み、熱心に観察する姿が公園のあちらこちらで見られました。2年生は小川にも入り、ズボンが濡れるのもお構いなしといった様子で、川エビやドジョウ、ヤゴなど目を輝かせながら夢中になって捕まえていました。「小さな命」との出会いは、子供たちにとって貴重な学びとなったはずです。

バーチャルな世界が子供たちの周りに増えている今の世の中だからこそ、子供たちにとってリアルな学び・本物体験の重要性・価値は、以前よりも増してきているのではないかと考えています。本校では、今後も「本物体験」を教育活動の中心に据えながら子供たちの「生きる力」を育んでいきます。

最後に、二小ならではの素敵な出来事を紹介します。名栗自然教室の出発時、校舎を見ると6年生からのメッセージが貼っ



「なぐりへ いってらっしゃい 楽しんで 学んできてね」

てありました。本当に素敵な子供たちです。いよいよ10月は運動会。二小の子供たちの縦のつながり・絆も生かしながら素晴らしい運動会となるよう全校で一丸となって取り組んでいきます。